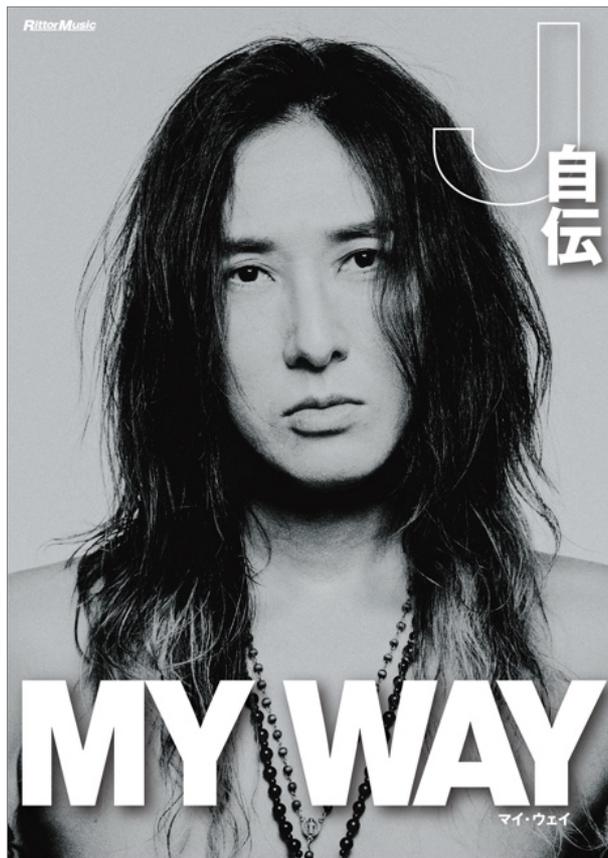


各 位

2025 年 8 月 12 日
株式会社リットーミュージック

LUNA SEA のベーシストであり、ソロ・アーティストとしても活躍する J が、これまでの半生を語り尽くした『MY WAY -J 自伝-』が発売。追加の記念イベントも開催決定！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『MY WAY -J 自伝-』を、2025 年 8 月 12 日に発売しました。

『MY WAY -J 自伝-』は、日本を代表するロック・バンドとして世代を超えた支持を集めている LUNA SEA のベーシストであり、ソロ・アーティストとしても活躍する J が、これまでの半生を語り尽くした初の本格自伝です。

今年 2 月に行なわれた、バンド結成 35 周年記念ツアー・ファイナルの東京ドーム公演『LUNATIC TOKYO 2025-黒服限定 GIG-』終了時を起点に、幼少期、破竹の勢いでシーンを駆け上がった LUNA SEA の初期、バンドとしての栄光をつかんだ裏での大いなる挫折、大きな決断となった“終幕”の実情、いちベーシストからソロ・アーティストへの意識の変化、LUNA SEA の“REBOOT”を経てのバンドとソロ・アーティストという両輪での活動といったこれまでのキャリアを振り返りながら、彼がいかにして常識に縛られることなく自分だけの道を選び続け、唯一無二の存在まで上り詰めたのかを紐解いていきます。単なるサクセス・ストーリーではなく、“ロック・アーティスト”

を離れたひとりの男としての生きざまをも描き出す内容は、確固たる現実として存在する実話でありながら、どこか小説を読んでいるような気分も味わえ、読者自身の人生を重ね合わせたり問いかけたりと、自らを顧みる機会にもなるでしょう。規模や内容は違えども、誰の人生にも訪れるさまざまな岐路で、彼が何を抛り所に道を切り拓いてきたのか、ぜひその信念に触れてください。

なお、本書の発売記念イベントとして8月31日(日)にジュンク堂書店池袋本店にて開催されるサイン会(申込受付終了)に想定を超える応募が殺到したため、急遽、新たな発売記念イベントとして、9月6日(土)にHMV&BOOKS SHIBUYAにてトーク&サイン会の実施が決定しました。申し込み詳細については、以下のサイトをご確認ください。

<https://www.hmv.co.jp/store/event/53620/>



東京ドームのステージに立つて感じたリアル

今日は2022年3月19日。ふと気がつけば、あの日からもう11ヵ月ほど経とうとしている。あの日はもうもちろん「LUNATIC TOKYO」の「LUNATIC TOKYO」がなかった。2022年3月23日のことだ。東京ドームという場所には、密着取材が及ぶ「LUNATIC TOKYO」がなかった。これまでの歴史をたどるさまざまな場面で、東京ドーム自体がひとつの目的地のような目撃者だったと言いたい。そして、この日は、駆け出しの頃の自分たちにとっては、凄然と思っていた夢のような場所でもあった。この長い年月の間には喜びばかりではなく苦難もたくさん経てきたし、いろいろなものを乗り越えてきたという自負もある。

さまざまなことを経験しながら進んでいく東京ドームのステージに立ち、俺は「こんな場所があるんだ」と感じていた。走馬灯のように過去の記憶が巡ってくるようなところもあつた。同時に、自分自身のなかで過去のいろいろなことを記憶を合わせていかなければ、目の前の景色がリアルなものとして成立しないような感覚というのがある。SUGIZAKIの言葉の響きや、経験にみちみちた機材で、うきうきと踊る空間でひとつひとつのフレーズを作り、それを曲にして、「しあ、また明日」なんて言いながら歩み始めたあの頃からの過程を振り返ってみると、いったいどんな風に進んできたのかという不思議さを感じさせられる。そして、さまざまな記憶がながたいていくなかで実感できるのは、夢のような場所ではあつてもそれが現実のものだった。空の空の話ではなく、まわってリアルな瞬間なのだ。おもしろいものだ、と自分でも思わずいられた。

東京ドームのステージに立つたのはもちろん今回が初めてではない。ただ、自分はいつも同じ場所であるはずなのに、ステージの上から見下せる景色は毎回違っていたように思う。今回も変な場所だった。このタイミングで東京ドーム公演をやるという話をしていた段階でもうだたけられ、やはり自分自身は今、というのに対しての思いは、過去にこの場所で遊んで来たほどの感覚も感じていた。最初「LUNATIC TOKYO」が開催された1996年当時も、2000年末の「終幕」の時も、さらには2007年「GOOD BLESS YOU - One Night Drama I」や2010年の「REBOOT」の時も変な場所だった。それは、瞬間最大風速のような感情に振り回されるのではなく、ガツンとくるようなパワースタンプのような感覚に反響して来たように、自分たちのバンドとしての年輪のようなものがあつた。この通り着る場所でもあつたように思う。ある意味、いろいろなものを乗り越えてきたことでも到達できた場所でもあると思う。

夢のような出来事がリアルであるためには、これまでに生きて来た過去の出来事ひとつひとつを肯定できなくてはならない。そうあってこそ、その場所に立っている人間としての強さというのを感じることができると。振り返るとあると本当にいろいろなことがあつたけれどそのひとつひとつがここに辿り着くためのきっかけだったんじゃないかと思えるようなところがあった。

今回の東京ドーム公演自体についても、それが素晴らしいものになるはずだという確信ばかりではなく、その反対側には当然のように不確かな思いが自分のなかにはあつた。あの場所を乗り越えようとする熱意を果たして今の自分たちに呼び起こすことができるのか。そして、熱そのものようなデザインが今の俺たちをどう受け止めてくれるのか。それ以前に、果たしてあの広い会場が埋まるのか、というのでもあつた。

■書誌情報

書名：『MY WAY -J 自伝-』

著者：J

仕様：A5 判／304 ページ

定価：2,970 円（本体 2,700 円＋税 10%）

発売：2025 年 8 月 12 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3125343006/>

CONTENTS

- 序章 2025 年、約束の地からの眺め the view from the promised land
第一章 スリルを求める少年の成長記録 a growing-up story of a thrill-seeking boy
第二章 名もなき街に、役者は揃った fateful encounters in a nameless town
第三章 天国の先に待ち受けていた地獄 the hell that awaited beyond heaven
第四章 無限の混沌が幕を閉じるとき when the never-ending chaos comes to an end
第五章 知られざる自分を探し求めて in search of the unknown self
第六章 終わりのない旅と運命の十字路 an endless journey and a crossroads of fate
第七章 想定外の未来と新たな現実 the unexpected future and a new reality
第八章 明日に向かうための、究極の約束 the ultimate promise for tomorrow

PROFILE

J（ジェイ）●1992 年に LUNA SEA のベーシストとしてメジャー・デビュー。1997 年には LUNA SEA の一時活動休止を機にソロ名義での活動をスタートし、1st アルバム『PYROMANIA』を発表する。2000 年の LUNA SEA 終幕を経て 2001 年にソロ活動を再開すると、海外から多数のアーティストを招き開催したライブ・イベント“FIRE WIRE”、史上初アリーナをオールスタンディングにして開催した日本武道館公演、数多くのゲスト・バンドを一同に迎えての 5 日間連続ライブ“SHIBUYA-AX 5DAYS”など、独自のスタイルでライブ活動を展開。2019 年 5 月には LUNA SEA 結成 30 周年を迎えた節目に、世界的楽器メーカーであるフェンダーとのエンドースメント契約を発表。2025 年 1 月発行のベース・マガジン誌で企画された『プロ・ベーシストが選んだ偉大なるベーシスト 100 人』では、世界中の錚々たるベーシストが名を連ねるなか、第 10 位を獲得。また、一般アンケート投票（#最も偉大なベーシスト 2025）においては、堂々の 1 位に輝いている。2025 年は LUNA SEA 結成 35 周年ツアーのグランドファイナルとして、東京ドーム公演を開催。LUNA SEA としても確固たるその存在を世に示した。現在も、日本のロック・ベーシストとして唯一無二のスタイルを提示し続け、LUNA SEA、ソロの両輪で活躍中。

©<https://www.j-wumf.com/>

【株式会社リットーミュージック】<https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』や T シャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】<https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp